



天津 便り

三重大学教育学部学校教育講座 教授 佐藤 廣和
教育学部附属教育実践総合センター長

9月9日から2週間、天津師範大学日本語コースの学生に「異文化間教育」の集中講義をしてきました。師範大学のスタッフの方々の熱烈歓迎ぶりと細やかな心配りのもとで快適な生活と授業環境が確保されていました。加えて、既に伊藤彰男先生が、数日後には宮岡先生が着任され心強い環境でした。とはいえ、学生にとっては日本語以外の専門科目は初めての履修ということでの戸惑いと、新キャンパスとの往き来の間隙をぬっての授業日程でかなりの負担がありました。私にとっても、日本語での講義ですがどこまで専門的な内容が理解できるのか見当がつかず、軌道修正の毎日でした。例えば、グループ討論は経験したことがないようでしたし、多様な地域生活語（方言）に接していながらそれを異文化理解の問題としては把握していないようでした。しかし、ハードな



日程の中で一生懸命理解しようとする学生達の真摯な学習態度に私は何よりも感動しました。この学生達のためだったらという思いに駆られ、久しぶりに、本当に久しぶりにほとんどの時間を講義の準備だけに費やすことが出来ました。市内観光に行くより充実感があります。最終日に吉野弘の詩「生命は」の群読を21名全員がプレゼントしてくれました。日本語を読むのが少し苦手な学生も懸命に皆と合わせて読んでいる姿を見て、思わず涙ぐんでしまいました。今でも21名の学生の顔を思い浮かべながら余韻を味わっています。このような貴重な機会を与えていただいた学部の皆様に心より感謝しています。ありがとうございました。



天津師範大学日本語コースの学生と佐藤廣和先生

三重大学教育学部 国際交流ニューズレター 第2号

目次

海外出張報告

■ 天津便り

至福の二週間

学校教育講座教授 佐藤廣和

■ 海外出張報告

UNCW・ミシガン大学への訪問

英語教育講座准教授 荒尾浩子

■ 学生海外活動

中国天津市実験中学における国際的知的財産教育の試行

技術教育専修2年 王 東屏

3 大学国際ジョイントセミナー・シンポジウムに参加した印象

学校教育専修1年 鏡 愛

UNCW 留学フェアレポート

人文学部4年 川北佳雅

■ 留学体験記

天津師範大学に留学して

理科教育コース4年 佐藤耕平

■ 海外からの留学生

河南師範大学留学生歓迎夕食会

■ 教育学部訪問団

ミャンマー訪問団来学

浙江師範大学訪問団来学

編集部から：

リーフレット版「国際交流ニューズレターNo.2」では一部割愛した佐藤耕平君の「留学体験記」を全文掲載しています。また、新たに写真を2葉追加しています。

■ UNCW・ミシガン大学への訪問

英語教育講座准教授 荒尾浩子

10月21日～28日に米国のUNCW(ノースカロライナ大学ウェルミントン校)とミシガン大学を訪問してきました。そのご報告をさせていただきます。ノースカロライナ州は、米国南部に位置し、訪問した10月は、本来ならば、すでに日本同様、紅葉の時期に入っているはずなのですが、今年は秋の訪れが遅く、滞在中は、ずっと真夏のような暑さでした。キャンパスの学生達も、皆、Tシャツに短パン姿で、地元の方々も口をそろえて「異常気象」であると言っており、地球温暖化をひしひしと感じることとなりました。UNCWのキャンパスはアメリカの大学と

しては、決して大きい部類ではありませんが、キャンパス内の建物はすべて同一のレンガ造りで統一され、樹木や芝生の手入れが大変行き届いており、空が大きく見え、整然としたすがすがしい印象でした。三重大から留学中の3名（教育学部2名、人文学部1名）とも会ってきました。学校の授業は、言語が英語であるということで、それなりの苦労があるようでしたが、最善の力を尽くしてなんとか行っている様子であり、また日々の生活上、親切に手助けしてくれる友人を見つけて、うまく生活しているようで、大変頼もしく見えました。UNCWの日本語講師である加納先生と今秋、そして来春に実施する遠隔授業について具体的に話し合い、信頼関係を築き、細かな計画を立てることができました。



ミシガン大学

ミシガン大学は、週の後半に訪れました。こちらは、打って変わって、すっかり秋も深まり、厚手のジャケットがなければ寒く感じるほどでした。キャンパスというより、町全体がキャンパスそのものであり、大学を中心に町が成り立っているという感じでした。重厚な古い趣の建物もあれば、最新のモダン建築もあり、ミシガン大学が長い歴史と共に、発展し続けているのがわかりました。滞在中の週末に、ホームカミングのフットボールの試合があるとのことで、近隣のホテルをとるのにも大変苦労しました。現地の方によるとミシガン大学関係者のフットボール熱は凄まじいもので、週明けはいつもフットボールの話題で持ちきりだということです。ランゲージリソースセンターのアドミニストレーターである John Stewart 氏やジャパンスタディセンターの事務職員である Jane Ozanich 氏と、これまでの遠隔授業の取り組み、そして今後のあり方についてお話をしました。遠隔授業は、両大学の学生にとって非常に刺激的であり、今後も続ける価値が充分にあることを確認し合いました。日本語講師の佐藤先生とは、来年度からスカイプを用いたのネットミーティングの実施を約束することができ、大変実りのある訪問となりました。

短い訪問でしたが、両大学が今後も三重大と遠隔授業を持続することに前向きである意向を確認することができたことは、大きな収穫であったと思います。

学生海外活動

■ 中国天津市実験中学における国際的知的財産教育の試行

教育学研究科技術教育専修2年：王 東屏

違法コピー商品の氾濫などアジア圏での知的財産の取り扱いが問題となっているが、罰則の強化等だけで解決する問題ではないと思われる。子どもの頃から知的財産の意味について体験的に学ぶ教育が有効であろう。そこで、天津実験中学で、身近なもの（今回のテーマは文房具）についてワークショップ形式によって発明体験をし、その上で知的財産の概念を学ぶという授業を村松研究室の学生7名で実施した。60分という短い時間にもかかわらず、ユニークな発明が生まれ、発明することの楽しさと共に、知的財産の概念の重要性を理解してもらうことができた。

天津師範大学の授業見学もさせていただいた。その中で前日の授業の成果を受け、日本語コースについては見学だけでなく、授業の参加（日本語での会話）が求められた。そこで急遽しりとりゲーム、連想ゲームに基づく授業を計画し、実践させていただいた。楽しく日本語を学んでもらうと同時に、双方の学生同士の交流をすることができた。（写真：勝浦莉津子）

今年度の「三重大国際交流基金国際交流事業経費助成（学生向け）」に教育学部から二件が採択され、これはそのうちの2件目についての学生による概要報告です。



■ 3大学国際ジョイントセミナー・シンポジウムに参加した印象

教育学研究科学校教育専修1年：鏡 愛

第14回3大学国際ジョイントセミナー・シンポジウムが10月21日から26日までチェンマイ大学（タイ）で開催され、教育学部からは3名の学生が参加しました。写真は質疑応答の様様。



「とても豊かな国やったなあ」と、タイでの日々を振り返り思います。セミナーでは、アジア各国の学生と英語での論文発表会、環境や生活について意見交流をしながら劇の制作、ホームステイ等、大学内では味わえなかった貴重な経験を沢山させていただきました。私は、特にタイの挨拶が温かく心に残っています。タイでは老若男女問わず、挨拶の際、必ずワイイという合掌をします。日本人が手を合わせる姿に似ていますが、ワイイは体を倒さず相手の目を見て微笑みながら手を顔の前にもってきます。最近、日本で目も合わさずに口先だけの挨拶が見られ、悲しくなることがあります。しかし、タイでは、空港の従業員も店員も目が合うと一度にっこりとして相手の視線に答えワイイをしており、相手への感謝を伝える時間を一番大切にしている生活がありました。タイは、日本に比べて物質的に豊かであるとはいえません。私がホー

ムステイした村の人々は、外国旅行やディズニーランドで遊んだり、ブランド物のバックを持ったりすることはないでしょう。しかし、朝早起きをしてお寺で修業をしているお坊さんに花やお菓子を持って行き、お経を共に読むことを大切な習慣としているように、タイの人々の信仰は篤く、感謝する心が溢れている豊かな時間が流れていました。昔、日本は、このような心を最も大切にしてきた国ではないでしょうか。慌ただしくて大切なことを忘れかけそうになっている私たちですが、日本の誰もがその大切さや素晴らしさを知っているのだと私は思います。今回訪れたタイでの経験は、国際交流だけでなく、感謝のための時間をおしまないというとても大切な心も教えてくれました。



すべての日程が終わって帰国前日に象のサッカーショーを見たり、初めて象に乗る楽しみを味わいました。乗っているのは鏡愛さん(右)と佐々木綾子さん(左)。

ウェルカム・パーティで三重大生が見せた沖縄の勇壮なエイサー踊り。他大学の参加者にも好評でした。



■ UNCW 留学フェアレポート

人文学部4年：川北佳雅



UNCW ウェストホール

11月14日、UNCWのキャンパス内で一般学生向けの留学フェアが開催されました。前日には次年度の留学に向け、本格的に準備を進めている学生向けのガイダンスがあったのですが、時間割の都合により私たち(川北・笠原・高橋)は14日のみ参加しました。フェアは半日間の短いもので、キャンパスの中心の時計台周辺に設けられた各大学のブースに立ち寄った学生に対しアピールを行いました。結果としては、ブースの立地に恵まれたこともあり、三重大に興味を示す学生の数は予想以上で、英語圏を含む他国の大学のブースと比べても決して引けを取りませんでした(事前に国際交流課の安井さんに送っていただいた三重大のペンは完売、うちわもほぼ完売でした)。

本気で三重大に来たいという学生も数人おり、すぐにはいかなくても1、2年以内には本当の「交換」留学が実現すると実感しました。また、英語で専門科目の授業を受けられるのならば三重大に来たいという声を多く聞きました。この意見は、marine science, biology, nursing, business, English literature, computer science, Asian cultures, physics, psychology, education を専攻とする学生たちから聞かれました。また、アメリカの English Language School (ELS) に相当する短期の日本語研修プログラムはないのかと尋ねる学生もありました。

以上のことから、UNCWの学生は、三重大大学に対し興味を示すものの、言語の壁から留学を敬遠する傾向があるように感じました。したがって、言語の壁を低くすることが交流促進の鍵であると確信します。具体的には、英語での専門科目増設や三重大へ入るための日本語試験のサポートなどが望まれると思います。

留学体験記

■ 天津師範大学に留学して

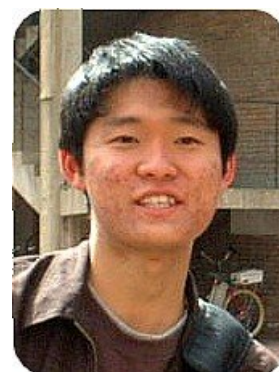
理科教育コース4年：佐藤耕平

私は2005年3月から2年間、中国の天津に語学留学をしました。全4学期のうち3学期、天津師範大学で勉強しました。その中で私が学んだことを以下にまとめます。

天津師範大学の留学生語学研修コースはA班からG班の6つに区別されており、一クラス20人ほどの編成になっています。初めてのクラスはE班でしたが、今までに中国語の勉強に本格的に取り組んだこと

はなかったもので、ほとんどゼロからのスタートでした。初級クラスのE班では、中国語の発音や声調から丁寧に教えてくれるので、実践経験が全くない私にとっては最適の環境でした。E班で学習するうえで最も痛感したことは、自身のリスニング能力の無さと発音が上手くできないことです。私は特にそうでしたが、日本人留学生は他の国の留学生に比べて、リスニングと発音が苦手なようです。中国語

の音は日本語の音とかけ離れていて、chi·qiの音や an·angの音が全く聞き分けられませんでした。とにかく、何度もテ



中国で生活をするうえで、感じたこと、必要だと思ったこと

留学費用 私が1年間に費やした費用は110万円ほどでした(航空券、保険、授業料を含む)。生活費はそれほどかからないと思います。上海や北京以外の都市の物価は日本よりずっと安いです。

保険 保険は入学するときの必要条件になると思います。留学生が病気になる時、基本的に外国人用の病院に行きます。そこはとにかく高いです。私は一度、重度の食中毒で3日間入院しましたが、費用は60万円以上かかりました。保険に入っていると全額負担してもらえます。立替の必要ありません。

交通 日本に比べると、非常に混乱しています。タクシースピード違反、信号無視は当たり前で、クラクションが聞こえないときはありません。交通費自体は高くないので、慣れてくると便利にはなりません。

気候 天津の気候は、夏は日本(三重)よりもはるかに暑いです。そしてとにかく陽射しが強いです。日本と同じようにしていたら、熱中症にかかっています。それなりの対策をしたほうがいいと思います。冬は氷点下です。とにかく着込む。ジーンズの下にジャージを履く。見た目を気にする余裕はありませんでした(笑)。

中国の人たち 最も強く感じたことは、とにかく中国の人たちは物事をはつきりと言うことです。日本人が謙虚だといわれることを強く実感してきました。中国人の友だちがいきなり私のお腹を触って、詰まんで、「太ったね!」と言った時は、怒りというより驚きでした。それでも、食事に招待してくれる友人もでき、今でも連絡を続けている友人もいます。やはり、同じ学生同士、仲良くできると思います。

ープを聴いて確認したり、先生や中国留学生の人たちに教えてもらったりしましたが、2年間勉強をした今でも、聞き分けられないときがよくあります。発音についても、留学をしてから半年以上たってから、だいたい聞き取ってもらえるようになった、私にとってはそれぐらい難しいものでした。最初の半年はとにかく中国語の基礎学習に専念しました。交換留学生だったこともあり、大学から家庭教師を紹介していただけだったので、授業の予習と発音の練習を見てもらいました。一つ一つのことを丁寧に教えてもらえたので、発音に関しては少しずつですが、確実に身につけることができました。

国際交流に関してですが、クラスのほとんどが女性で男性は4人だったと思います。しかも、そのうち2人はほとんど授業に来ませんでした。いつも残った2人で行動をともにしていましたが、とにかく2人とも全くしゃべれないので、その状態にはなかなか慣れることができませんでした。でも、その人のおかげでおいしい韓国料理を知ることができました。天津には韓国料理店が中華料理店に負けんと並んでいます。最初の半年は不安でいっぱいでしたが、学ぶこともたくさんあり、非常に新鮮な感じでした。

その年の後期はC班で学習しました。中国語にも慣れてきたので、留学生同士での簡単な会話もできるようになりました。中国は日本とは違い、9月が前期課程となります。他の国でも9月に新学年となることが多らしく、大方の留学生はこの時期に始めて中国にやってきます。私は前

学期からいるということでクラスの班長をすることになりました。班長会議に出席すること(なんと、食事ができます!!)、そこで話されたことをクラスに通達するのはまた大変でした。クラス一人ひとりの語学能力の違い、今までの学習環境の違い、いろいろな原因がありますが、なかなか上手く伝えることができません。クラス間で翻訳をしあいながら、ゆっくりと理解してもらいました。このクラスで過ごしていくなかで、最も良かったことはルームメイトが同じクラスの学生だったことです。学習の際も一緒に確かめ合

ながら勉強することができました。一緒にいるうちに友人も増え、中国語を話す機会も増えたので語学力が一番伸びた時期だと思います。

留学2年目は交換留学生ではなく、個人で留学することにしました。天津師範大学だけではなく、天津市にある他の大学はどのようなものか、見てみたかったです。そこで、天津大学で勉強することにしました。天津大学の講義は師範大学と比べて、とにかく指導が徹底していました。授業の進度も速いし、宿題が山のようになってました。天津大学は天津市で、最も有名な大学です(本科生についてですが…)。キャンパスはとても広く、天津師範大学よりも多くの施設がありました。しかし、学費や寮費など生活面での費用は、天津師範大学よりも高くなります。また、天津師範大学とは違い、太極拳などの無料の課外学習はありませんでした。

留学最後の半年間はもう一度、天津師範大学で勉強することにしました。生活費や授業など、いろいろな方面から考えて、私にとっては天津師範大学のほうが合っていると思ったからです。三重大と天津師範大学が友好関係にあるため、天津師範大学の先生がたは、すごく、私のことを気にかけてくれました。そのことから考えても、やはり中国に留学するなら、三重大から天津師範大学へ行くことがお勧めです。

最後の半年はA班で学習をしました。A班で最も印象的だったのが、会話の授業



天津師範大学 教学楼

でした。会話の授業では教科書を使わず、毎回、学生一人ひとりが司会者となり、その学生が考えてきたテーマに対して、自分の意見を発表、討論しました。テーマは「10年後の自分は何をしているか」、「タイムマシンがあったらどう活用したいか」、「もし、10年後に死ぬとしたら何がしたいか」など、面白いテーマがたくさんありました。自分が司会をするときは準備が大変でしたが、相手にきちんと伝わるように文法や言い回しに気を配れるようになりました。教科書を使わなかっただけ、学生が発言をする機会が大幅に増え、「聴く」「話す」と最も「会話」の実践力がついた授業でした。クラスで旅行にも行きました。班長が旅行の企画をし、私は副班長だったのですが、2人で何度も旅行会社に

足を運んで、値切りに値切って格安の旅行に行くことができました。よそのクラスからも参加者が集まり、大きなイベントになりました。先払いをしてくれない人がいたので、立替が大変でしたが…。

私の留学生生活を簡単にまとめましたが、中国で過ごした2年間は、非常に内容の濃いものになったと思います。他の日本人留学生の話の聴くと、自分が知らなかったことがまだたくさん出てきて、私よりもずっと色々なことを知っている人ばかりでした。経験したことも、感じたことも人それぞれなので、一度、自分でその国に行ってみるといいと思います。特に中国は面白いと思います。

この2年間では語学の学習だけではなく、いろんな人に会い、その人たちに感化

されながら少しずつ成長できたと思います。正直に言って、中国に来る前はこれといって、得意なことや誇れるようなことがありませんでした。教育学部出身なので、将来は教師になることを志望していますが、これからいろんなことを経験するなかで、留学中に考えて少しずつできるようになってきたという経験が、自分の基盤になってやっていけるようになりたいと思っています。留学中にお世話になった、私の担当していただいた早瀬先生を始め、国際交流委員会の先生方、天津師範大学の先生方には本当に感謝しています。

海外からの留学生

■ 河南師範大学留学生歓迎夕食会

9月下旬にお迎えした、学部間協定に基づく河南師範大学からの交換留学生3人を歓迎する夕食会を10月24日、学部長、指導教員、国際交流委員会関係者で行いました。3人の笑顔が印象的な、とても楽しい会食となりました。



教育学部訪問団

■ 浙江師範大学訪問団来学

中国浙江師範大学の副学長他6名が10月15日三重大学を訪問されました。一行は今回、国内4大学を歴訪されたもので、三重大学では人文学部と教育学部を訪問されました。教育学部では教員養成教育の状況及び国際交流について熱心な意見交換がなされました。



■ ミャンマー訪問団来学

国際協力機構（JICA）のプログラムに伴うミャンマーからの初等教育教師25名の訪問団が10月31日、三重大学を訪れました。午前中は学長表敬訪問後、教育学部長挨拶（写真）、ビデオ紹介、授業参観、午後は附属小学校を視察されました。「三重大学に留学したい人？」の問いにほぼ全員が挙手するなど強い関心を持たれたようです。